私たちは、通常時の勤務とは別に自主的に課題を決め、勉強した内容を毎月発表し合っています。

自主勉強

金属アレルギーについて

普段の生活の中でアクセサリーや時計などの装飾品を身に付けて、痒くなったり肌がかぶれた経験はありませんか？もしかしたらそれは金属アレルギーかもしれません。近年では10人に1人は何らかのアレルギーを持っている時代と言われています。その一つである金属アレルギーについて今回紹介していきます。

金属アレルギーとは

金属が原因で起こるアレルギーのことを指しますが、実際金属は身体に対して無害です。汗や唾液で溶け出した金属イオンが身体のたんぱく質を変性させ、その変性されたたんぱく質がアレルゲンとなりアレルギーが引き起こされます。つまり、無害な金属をたんぱく質が有害と誤認してしまい、かゆみなどの症状が引き起こされます。遅延型アレルギーに分類されており、花粉症の様に原因物質に接触して短期間に症状が出るタイプとは違い、すぐには症状が現れません。このため原因が特定されにくいことがあります。

原因

発症には個人差があるようですが、最も多い患者層は40代女性だそうです。これはおそらく長期間にわたる装飾品の使用などでたんぱく質が変性されたのではという説があります。アレルギーを引き起こしやすい因子は次の通りです。

- 汗をかきやすい
- 怪我や肌荒れで粘膜が露出している（最初のピアスなども原因）
- 口の中に金属が多く、清掃不良（歯垢の中の細菌の分解により金属が酸性化する）

症状は金属に触れた部分に局所的に出る場合と、血液を介して全身に出る場合があります。局所的な症状はいわゆるかぶれの様な症状で、かゆみ、痛み、発赤、発疹などが起き、口の中の症状では口内炎や口角炎、舌炎、舌痛症などが挙げられます。全身的な症状は、吸収された金属が汗に濃縮され全身から出ることにより皮膚に症状を起こします。顔面湿疹・掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）・汗疱状湿疹（かんぽうじょうしっしん）が主な症状です。

掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）

手のひらと足の裏に無数のブツブツができる。特に、手は親指の付け根、小指の下の膨らんでいる部分。（図1）

足の裏は土踏まずのところ。（図2）

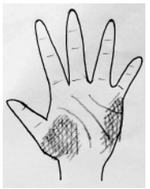

図1

図2

汗疱状湿疹（かんぽうじょうしっしん）

手のひらや足の裏に小さな水疱ができ、それが破れて皮膚が湿疹化したのもの。足の裏や手の指の側面にできることが多い。

引き起こしやすい金属

イオン化しやすい金属がアレルギーを引き起こしやすくなります。銀・ニッケル・コバルト・水銀・アルミニウム・クロムなどはイオン化されやすく、金・プラチナ・チタンなどはイオン化されにくい特徴があります。歯科の保険で扱うパラジウムも金などに比べるとイオン化する特徴があると言われています。（図3）

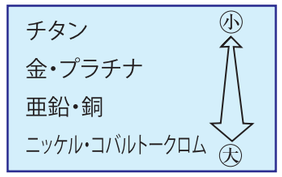

図3

検査方法

検査方法は様々でありますが、身近なものは内科で行えるパッチテストです。複数の金属を背中に貼り付け、二日後、三日後、七日後と数日にかけてテストします。アレルギーの可能性のある金属は貼り付けた箇所が発赤することで判定を行うことができます。

金属アレルギーといっても全ての金属に対して症状が出るわけではありません。歯科治療の金属に不安のある方は一度パッチテストを受け、どの金属が使えないのか参考にしてみてはいかがでしょうか。

近年ではアレルギーを持つ人が多くなっており、気付かぬうちに何らかに対して症状が出ているかもしれません。金属アレルギーも全く関係のない場所に症状が出て、知らぬうちに羅患している事があります。一見歯科とは関係ない箇所にある症状でも不安に思う方はスタッフに相談してみて下さい。

しかし、必ずしも金属が悪いというわけではありません。大丈夫なもの、症状が出るものを把握し、上手に付き合っていくことでも回避することができます。原因の項目でも述べたように、お口の中へのお掃除がしっかり行われているかどうかでも左右されてきます。何よりも大切なことは処置をしなくて済むように日ごろから十分なケアを行うことです。この機会にご自身のアレルギーを見直してみてはいかがでしょうか。

歯科衛生士　君島　知見

親知らずについて

親知らずについて皆さんはどのくらい知っていますか？私はレポートを作ったことで知り得たことが沢山ありました。これを読んで少しでも興味を持って頂けたらなと思います。

① 語源について

赤ん坊の歯の生え始めと違い、多くの場合親知らずは親元を離れてから生え始めるため、親が歯（親知らず）の生え始めを知らない、という説から親知らずと名が付いたといわれています。

② 親知らずがある人とない人がいるのはなぜか？

最近は、人によっては何本かの親知らずが元から欠落している傾向にあります。それは日本人のあごの骨格が近年ますます小さくなっているからです。欧米人などと比べてみても日本人のあごの骨格は、奥行きが少なく小さいのです。その為に、あごのスペースが足りずに親知らずがとんでもない方向や、とんでもない位置に生えてしまう「萌出異常」は、現在の日本人にとってたいへん身近なケースになっています。現代の日本人は柔らかいものを食べ、噛む回数が少なくなり、それにつられてあごが小さくなって顔が細くなり、エラが張ったような人は少なくなりました。玄米や雑穀を食べ、魚の骨を噛み砕く食生活をしていた頃とはまったく様変わりしてきたのです。その為、現在親知らずは食生活などの影響にもより退化傾向にあり、少しずつ小さくなってきました。そうした退化傾向を象徴するのが先天的に生えない人が増えているということです。

硬いものを噛み砕いて食べていたころに大切だった親知らずは、今現在では実質的な役割を終えつつあるのです。

＊親知らずが全て生えそろう割合＊

1. 縄文時代　81％
2. 古墳時代　62％
3. 鎌倉時代　42％
4. 現代　36％

③ 抜歯するか、しないかの条件

親知らずを抜くか抜かないかは、親知らずが歯としての働き（噛むこと）をしているかしていないかで判断できます。親知らずの噛み込む相手の歯（上なら下、下なら上）が無かったり、斜めに生えていて満足に噛むことができないのに、虫歯や歯周病になって腫れたり痛くなることがあります。そのような場合は、抜いてしまう可能性は高くなります。しかし、親知らずが虫歯になっても歯としての働きをしている場合には、虫歯の大きさにもよりますが治療をして残すこともあります。

＊時間と共に抜くかどうかも変化する＊

親知らずを抜くか抜かないかの判断は時間の経過と共に少しずつ変化します。口腔内の環境の変化で、親知らずは長い時間をかけて少しずつ動くこともあります。多くは20代～40代で問題になることが多いですが、70歳を過ぎて抜くことになったケースも少なくないそうです。痛みが出たら早めに歯医者でのチェックを受けて確認してもらうことが大切です。

＊抜かない場合＊

① 親知らずがあっても十分に汚れを管理できる場合や、完全に歯肉や骨の中に潜りこんでいる時はすぐに抜歯しないことがあります。（図1）

② 将来的に歯の土台に使用できるときはブリッジにすることがあります。（図2）

④ 抜歯するときに注意すること

＊抜歯前の注意＊

- 【睡眠】　前日は十分な睡眠を取るようにしましょう。
- 【食事】　術後は麻酔が効いているので食事は軽く済ませておきましょう。

＊抜歯後の注意＊

- 血行が良くなることは控えて下さい。入浴や湯船には入らずにシャワー程度にし、飲酒や運動も当日は控えて下さい。痛みや出血の原因になります。
- うがいについて

基本的にはうがいは控えて下さい。治りを悪くする原因になります。水を口に含み、軽く浸す程度にして下さい。

- 止血について

通常抜歯後1日ほど唾液に少し血が混じります。出血が続く時は、清潔なガーゼやティッシュを丸めて傷口を圧迫するように当てて10分以上噛みます。たいていはそれで出血は少なくなります。出血が止まらない場合は歯医者に電話をするようにしましょう。

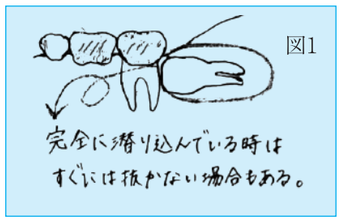

図1

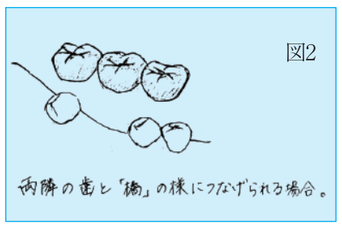

図2

歯科助手　佐藤